

群 教 七	I01 - 08
	平26.254集
	特・情緒障害

中学校自閉症・情緒障害特別支援学級における人と関わる意識を高める支援の工夫

—自己肯定感を高めるための振り返りと

ソーシャルスキルトレーニングを通して—

特別研修員 田子 賢一

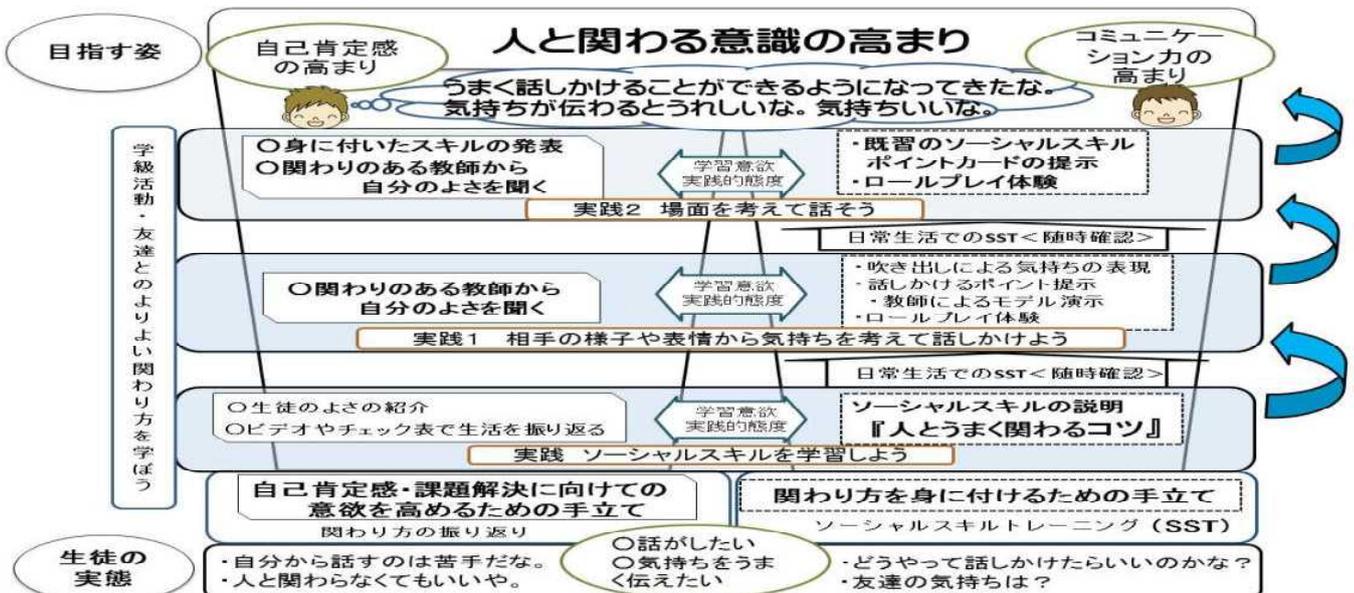
I 研究テーマ設定の理由

自閉症・情緒障害特別支援学級の生徒は、社会生活を円滑に行うために必要となる、自己理解をする力やコミュニケーション力の不足という特性が見られることが多い。本学級生徒は、場に合わない言動をしてしまい、相手とうまく意思の疎通が図れないためにトラブルとなることがある。また、自分の気持ちや思いをうまく伝えて会話を楽しみたい、人と気持ちよく関わって生活したいという思いはあるが、自信を持った言動ができなかったり、人と関わるのが苦手であったりといった傾向も見られる。

本研究では、自分のよさや生活を振り返る活動と合わせて、人と関わるコツを身に付けるソーシャルスキルトレーニング（以下、SSTとする）を取り入れ、学級活動を中心とした実践を行う。肯定的な自己理解によって学習意欲を高めた上でSSTを行うことは、生徒の自己肯定感や自己の課題を解決しようとする意欲及びコミュニケーション力を高めることにつながると考えた。そして、授業実践と同時に、学校生活全般で自分の思いを相手にうまく伝えたり、相手の気持ちを考えたりすることができる経験を積むことで、生徒は充実感や満足感を得て、よりよく人と関わりたいという意識がさらに高まり、実践意欲や態度へと結びつくと考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1) 実践における手立て

生徒が自分の生活を振り返ることでソーシャルスキルを身に付けることの大切さを知り、今後の活動への見通しを持つことをねらいとして、次のような手立ての工夫を行った。

① 友達と関わる自分の姿を振り返りやすくするための工夫

- ・班活動等の学習場面をビデオ撮影し、映像を見ることで、自分の姿を振り返りやすくする。

② 自己理解を深め、SSTにより課題解決への意識を持たせるための工夫

- ・個別の自己チェック表を確認することで、自分にできていることや苦手とすることを理解し、SSTにより課題解決していくことを意識する。

実践では、ビデオの映像やチェック表により、ソーシャルスキルについての理解と今後の学習への意識付けはできた。ソーシャルスキルを着実に身に付けさせるためには、どのような言葉づかいや行動をすればよいのかといったことを明確にして提示することが必要である。

(2)実践1における手立て

① 自分の生活を振り返り、自己肯定感や課題解決に向けての意欲を高めるための工夫

- ・導入時に、関わりのある教師から、生徒のよさについてのコメントを伝える場面を設定する。

② 相手の気持ちを考えた話しかけ方を身に付けさせるための工夫

- ・既習のソーシャルスキルを確かめる活動を取り入れる。
- ・モデルとなる場面を教師が演示し、相手の気持ちを考える場面を設定する。
- ・身近な場面を設定し、話しかけ方の手順を提示してロールプレイを行う。

実践1では、生徒は自分のよさが認められるという自己肯定感につながる体験をすることができ、その後のSSTに意欲的に取り組む姿が見られた。また、話しかけ方の手順を提示したことで、生徒はどこに注意すればよいのかというポイントを意識をしてSSTを行うことができた。次の段階として、習得したソーシャルスキルの確認や定着に向けた復習が必要であることが課題となった。

(3)実践2における手立て

① 自分の生活を振り返り、自己肯定感や課題解決に向けての意欲を高めるための工夫

- ・導入時に、関わりのある教師から、生徒の成長についてのコメントを伝える場面を設定する。
- ・身に付いたソーシャルスキルをチェックし、発表する。

② 場面や相手の状況に応じて話すことができるようにするための工夫

- ・既習のソーシャルスキルのポイントカードを提示する。
- ・復習したい場面を選択して、ロールプレイを行う。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 自分のよさが認められる体験やチェック表でソーシャルスキルを振り返る活動を重ねていくことにより、生徒は自信を持つことができ、自己肯定感を高めることができた。
- 話しかけるポイントを意識させ、具体的な場面でのロールプレイを取り入れたSSTを行ったことで声のかけ方を考えようとする姿が見られ、人と関わる意識を高めることができた。

2 課題

- ソーシャルスキルの定着には、成功体験の積み重ねが重要である。今後も生徒の能力に応じて、計画的・継続的なSSTを行うとともに学んだことを生かそうとする意欲や自己肯定感を高めていきたい。
- 生徒がより人と関わろうとする意欲を持てるように、自分のよさに気付ける活動を継続して行っていく必要がある。

3 提言

- 自分のよさに気付く振り返りとSSTの活動を取り入れたことは、生徒の自己肯定感を高め、前向きに自己課題に取り組む姿につながった。このような活動の積み重ねが、自閉症・情緒障害特別支援学級の生徒にとって、よりよく人と関わろうとする意識を高め、実践意欲や態度につながると考える。

<授業実践>

実践 1

1 題材名 「友達とのよりよい関わり方を学ぼう」 ～相手の行動や表情から気持ちを考えて話そう

2 本題材及び本時について

SSTを知る学習の実践後、日常の生活場面で必要な SSTを随時行ってきたが、既習のソーシャルスキルの確認とともに、さらに次の段階を身に付けさせたいと考え、改めて生徒の実態を見直した（表1）。

表1 人との関わりやソーシャルスキルに関する生徒の実態

人との関わりの様子	関係するソーシャルスキル
<ul style="list-style-type: none"> ・人に話しかけることは苦手で、自分から話しかけることは少ないと自己理解している。2名 ・自分から話しかけることができていると自己理解している。1名 ・必要な場面によっては友達に自分から話しかけることができるが、話しかけるタイミングをつかむことが苦手であったり、話しかけ方が唐突であったりすることが多い。相手の顔を見ないことあり。全 ・相手の状況や、気持ちを考えた話しかけ方は苦手。2名 ・言葉以外で自分の意思を伝えようとすることがある。1名 ・友達が困っているときに手を貸そうとすることができる。1名 ・当番活動で、役割として任されたことはやり通すことができる。全 ・授業中は分かったときに、進んで発言することが増えてきた。1名 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自己理解 <input type="checkbox"/> 話しかけるきっかけの言葉 △ 質問の仕方 △ 相手の気持ちを考えた話しかけ方 <input type="checkbox"/> いろいろな気持ちの読み取り <input type="checkbox"/> 気持ちの伝え方 ○ 困っている人を見たらどうするか ○ 自分は何をすればよいか

○身に付いている □やや身に付いている △身に付けさせたい

上記の実態をもとに、本時では、導入で自分のよさや生活を振り返り、習得が不十分であると思われる「話しかけるきっかけとなる言葉」についてまず確認する活動を行い、その後、中心となる「相手の気持ちを考えた話しかけ方」の SSTを行うことにした。

3 授業の実際

(1) 本時のねらい

人との関わり方を振り返り、相手の状況を見て気持ちを考え、話しかけることができる。

(2) 手立ての実際

① 自分の生活を振り返り、自己肯定感や課題解決に向けての意欲を高めるための工夫

○導入時に、関わりのある教師からのコメントを聞く。
授業を担当している教師から自分のよさを認められることで、生徒は自信を持つことができ、自己肯定感の高まりとともに新たなソーシャルスキルを身に付けようという学習意欲も高められるであろうと考えた。

【コメントを聞いた場面】

T 「S1くんは、英語の授業のとき、質問に対し、積極的に答えようとするものが多くなってきていますよ。」

S1 「ふふっ」と笑う。(興奮した様子で、笑顔を見せながら)

他の生徒も、コメントを聞いた時に、照れを隠すようにしながら笑みを漏らしたり、にやりとする表情が見られた。

関わりのある教師から、直接コメントを聞くことができたS1は、その後の授業の中で進んで発言したり自分から積極的に SSTに取り組んだりするなど、言動が活発になった。他の生徒も表情よく学習に取り組むことができた。師から見た生徒のよさ

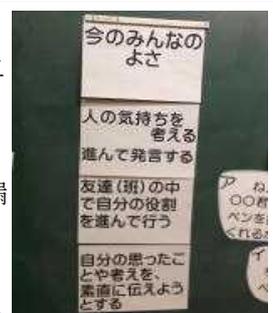


図1 関わりのある教師から見た生徒のよさ

②相手の気持ちを考えた話しかけ方を身に付けさせるための工夫

○既習のソーシャルスキルが身に付いているか確かめる活動を取り入れる。

「友達にノートなどを借りようとする場面」「職員室で先生に提出物を渡す場面」を使い、話すきっかけとなる言葉を3択にしてどの言葉かけが最もよいか選ばせ、確かめた。

【「話しかけるきっかけとなる言葉」】

どちらの場面においても、生徒は、「相手の名前を呼ぶ」「自分の存在に気付いてもらう言葉を言う」という、きっかけの言葉を使った表現を選ぶことができた。

○モデルとなる場面を教師が演示し、声をかけられたときの相手の気持ちを考える。

- ・吹き出しカードを用い、気持ちを表現させた。
- ・「にこやかな表情」や「しかめっ面の表情」の表情カードを提示し、相手の気持ちの確認を行った。

【相手の気持ちを考える】

T 「このような表情の時は、どんな気持ちですか？」

(しかめっ面表情カードを示しながら) (図2)

S1 「機嫌が悪い。」

S2 「いきなり呼ばれて、気分が悪い。」

表情の読み取りはどの生徒もできていた。

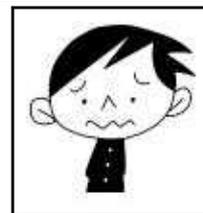


図2 表情カード

○話しかける際のポイントとなる手順を示し、練習をさせる。

- ・「名前を呼ぶ→表情を見る→相手の気持ちを考える→話しかける言葉を選ぶ」をポイントとして提示し、それを確認しながら教師が演示を行った。(図3)
- ・話しかける言葉の例を3つ挙げ、最もよい例をロールプレイで体験させた。(図4)
ア「ごめんね。(悪いけれど) すぐに返すから (少しだけ) ノートを貸してくれるかな？」
イ「少しいいからノートを貸してくれる？」 ウ「ノート貸して。」

【話しかけるロールプレイの実践】

S3のやりとり

S3 「ねえ、〇〇君。」

(相手の表情をちらっと見て)

T 「なあに？」(にこやかに)

S3 「ちょっとでいいから、ノートを貸してくれる。」(相手をちらちら見ながら)

T 「いいよ。」

S3 「ありがとう。」

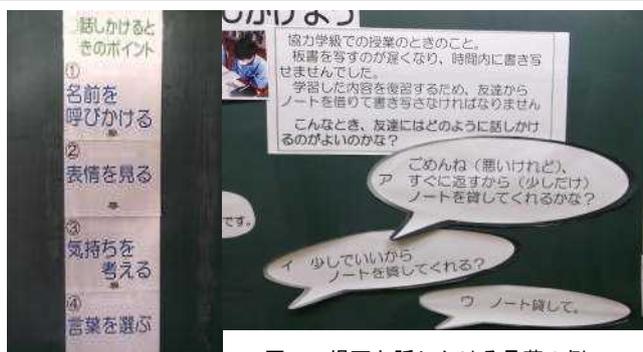


図4 場面と話しかける言葉の例

図3 話しかけるポイント

- ・掲示した言葉の例を見て、話しかけるきっかけの言葉を言い出すことができた。(S2)
- ・照れながらであったが、自分で考えて声をかけることができた。(S1)

本時についての学習の振り返りから抜粋

- ・「言い方をていねいにするのは、とてもいいことだと思います。」
- ・「楽しかった。復習になりました。」
- ・「話しかける方法がよく分かってきた。」

4 考察

導入時に関わりのある教師が生徒のよさを認めることで、生徒の学習活動を活発にすることにつながった。また、話しかけるときのポイントを掲示し、確認をしながら演示を行ったことは、生徒がポイントを意識してロールプレイを行うために役立った。ロールプレイではゲストティーチャーが相手役となったが、話しかけられる側の体験もできれば、より相手の気持ちを深く考えて行動しようとする意識を高めることができたと考えられる。

実践 2

1 題材名 「友達とのよりよい関わり方を学ぼう」 ～場面を考えて話してみよう

2 本題材及び本時について

実践1の後、学校生活全般の中で機会を捉え、学習したソーシャルスキルを実践してみるよう声かけを行った。その結果、友達の名前をまず呼びかけたり、教師にはていねいな言葉で話しかけるなど、関わり方を意識している姿が見られた。しかし、生徒に実践した様子を聞くと、「友達にうまく気持ちを伝えられたか分からない」「声が出せなかった」などと戸惑いの返事が聞かれた。ソーシャルスキルの定着を図るためには、前時のよさを生かしてさらに発展的な授業を設定することが必要であると考えた。

本時では、実践1同様、自分のよさを知るという導入にさらに工夫を加え、身に付いた自分のソーシャルスキルを発表したり、生徒が自分で場面を選び、友達同士で関わり方の SSTを行ったりする活動を通して、ソーシャルスキルのさらなる定着を図りたいと考えた。

3 授業の実際

(1) 本時のねらい

人との関わり方を振り返り、場面や状況に応じて、話をするができる。

(2) 手立ての実際

① 自分の生活を振り返り、自己肯定感や課題解決に向けての意欲を高めるための工夫

○導入時に、関わりのある教師から、生徒の成長についてのコメントを伝える場面を設定する。

関わりのある教師から、事前に生徒の成長の様子を手紙形式で書いてもらい、一人一人の生徒に渡した。

【コメントの概要】

『自分の思いを伝えようと、発言したり行動したりするときに、言葉のかけ方やタイミングを考慮することができるようになってきた。』

『積極的に自分の思いを伝えられるようになってきた。自分の言葉でしっかりと相手に伝わるように言葉を選んで話ができている。』

『相手に応じて、言葉づかいに気を付けて話すことができる。人を褒める言葉がけができるようになってきた。』

【コメントに対する生徒の様子】

読んだ後の感想を聞くと、「ありがたい気持ちです。」「うれしかったです。」と、うれしそうな表情をしてつぶやいたり、少し昂揚した態度を見せたりした。

○身に付いたソーシャルスキルをチェックし、発表する。

教師からもらったコメントも参考に、チェック表にどの程度ソーシャルスキルが身に付いたかを自分で確認し、その中の一つを発表する。

S1「相手によって、言葉づかいを気を付けるということができていると思います。」

S2「顔を見て静かに聞くということに気を付けています。」

S3「相手によって言葉づかいを気を付けています。」

初めは照れながら発表する生徒もいたが、次第に全員が、周りに聞こえるように発表する姿が見られた。自己肯定感が高まり、自信につながっていると感じる事ができた。

ソーシャルスキルチェック表					
○ ○ ○	学級				
氏名					
◎自分のソーシャルスキルを振り返ろう					
☆よくできていること					
<ul style="list-style-type: none"> 友達や先生に、自分の思いを伝えて伝えようとしていることができる。 相手に聞こえる声で、自分のことや考えを話すことができる。 言葉に「すこしね」などを、目的に応じて使ったりすることができる。 					
『先生方からコメントをもらった気持ちね？』					
★チェックしたいソーシャルスキル (4段階で自己チェック○を付けよう)					
(4 よくできている 3 少しできている 2 気をつけている 1 思っていない)					
1	相手によって、言葉づかいに気を付ける	4	3	2	1
2	質問したいとき、たずねたいことを考えてから質問する	4	3	2	1
3	自分の伝えたいことがあるとき、相手が想像しやすいように順番を考えたりして話す	4	3	2	1
4	話を聞くとき、相手の顔を見て静かに聞く	4	3	2	1
5	話を聞くとき、うなずいたり「そうですね」「なるほど」と言ったりする	4	3	2	1
6	話しかけるときに、タイミングを考えて話しかける	4	3	2	1
7	自分の伝えたいことがあるときに、相手が想像しやすいように順番を考えたりして話す	4	3	2	1
8	態度や表情から、相手の気持ちを読み取る	4	3	2	1
9	相手が困っているとき、自分にできることを言葉や態度で助めかける	4	3	2	1
10	相手を褒めたり励ましにさせないような言葉に気を付ける	4	3	2	1

図5 ソーシャルスキルのチェック表

②場面や相手の状況に応じて話すことができるようにするための工夫

- 既習のソーシャルスキルのポイントカードを提示する。
これまでに学習してきた、相手と関わるために必要なソーシャルスキルのポイントをまとめたカードを提示した。

- ・話しかけるときのポイント
- ・聞くときのポイント
- ・お願いするときのポイント
- ・質問するときのポイント
- ・話しはじめのポイント (図6)・説明するときのポイント

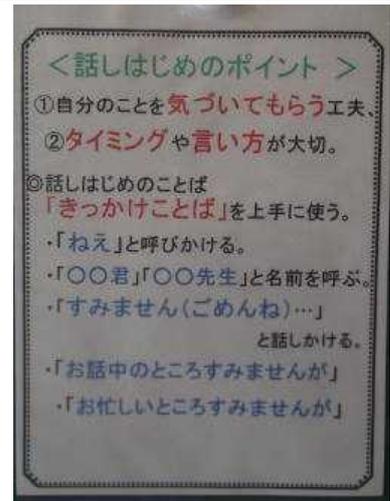


図6 「話しはじめ」のポイントカード

- 復習したい場面を選択して、ロールプレイを行う。

- ア 友達にノートを借りる場面
- イ 職員室で先生にノートを提出する場面
- ウ 教科書を忘れて困っている友達を見かけた場面
- エ 掃除の順番を、友達に教えてあげる場面
- オ 理科の実験で自分の役割がわからなくなってしまった場面

以上から、一人一人が場面を選び、話しかける役と相手役に分かれ、ロールプレイを行った。その際、どのソーシャルスキルのポイントを活用すればよいのかも選ばせ、ソーシャルスキルの理解を見取った。また、ロールプレイの途中で、相手役の生徒に、話しかけられたときの気持ちをたずねること、相手の気持ちを考えることの大切さに気付かせるようにした。

【ロールプレイの実践】

- S1 場面ごとに自分で言葉を考えて、積極的に話すことができた。
- S2 ポイントカードを見て、気を付けながら話しかけることができた。
- S3 場面ごとにポイントカードを見て、気を付けて話しかけることができた。自分が選んだ場面では、自信を持って声をかける姿が見られた。
すべての生徒が、それぞれの場面に必要なソーシャルスキルを選択することができた。

本時についての学習の振り返りワークシートから抜粋

- ・「今日学習したことを生かしていきます。」
- ・「これからもソーシャルスキルを生かしていこうと思います。手紙をもらってうれしかったです。」
- ・「ソーシャルスキルは、将来の自分をよくするため、相手の立場を考えると役に立つと思います。これからもっとソーシャルスキルをうまく使えるようになりたいと思います。」

学習の振り返り	
氏名	
◎今日の学習を振り返ろう (3段階で自己チェック…○をつけよう) <3 よく分かった(できた) 2 分らない(分かった(できた)) 1 あまり分からなかった(できなかった)>	
○ 進んで学習に取り組むことができましたか	1 3 2 1 1
○ 身に付いたソーシャルスキルが分かりましたか	1 3 2 1 1
○ ソーシャルスキルのポイントが分かりましたか	1 3 2 1 1
○ 場面や状況に合わせて、どのソーシャルスキルが必要かわかりましたか。	1 3 2 1 1
○ 場面や状況に合わせて、話すことができましたか。	1 3 2 1 1
○ ソーシャルスキルを、これからの生活でも生かすことができそうですか。	1 3 2 1 1
*今日の学習の感想を書きましょう	

図7 学習の振り返りワークシート

4 考察

導入時に関わりのある教師からのコメントを渡したことは、生徒にとって、自分のことを見てくれて、自分も認められているという意識を強く持つことにつながった。身に付いたソーシャルスキルを発表する際にも、自信を持って発言している様子が見られ、自己肯定感が高まり、学習への意欲にもつながったと考える。

ポイントカードを場面に合わせて選び、活用しようとした生徒の姿から、ソーシャルスキルの定着が図れてきていることが分かった。しかし、実際の場面での活用は十分でないと考えられるため、今後も計画的・継続的に SSTを行う必要があると考える。

授業の振り返りの生徒の記述からも、ソーシャルスキルを生かしていこうとする意識の高まりを見ることができた。人と関わろうという意識を今後も持続させるために、自分のよさに気づき、自信を持てるような活動を工夫していく必要があると考える。